

[市民公開講座]

『C型肝炎は完治する』を聴く

国病久原会 会長 廣田典祥

9月17日、当院の人材育成センター、あかしやホールで臨床研究センター長 八橋 弘先生による上記講演会(司会 肝臓内科医長 阿比留正剛先生)に出席いたしました。

会場には、関心の高い多くの市民で、会場は満杯となり、100名位集まったでしょう。



八橋先生の講演に聴き入る参加者

講師の八橋先生は、専門性の高い医学スライドを使いながら、市民に分かりやすく、聴衆に飽きさせない語り口で親しみを込めながら話をされました。

1. 太らない、飲みすぎない
2. 肝臓の硬さとチーズの硬さ
3. B型肝炎最新治療
4. C型肝炎最新治療
5. 肝臓で長く生きる為に必要なこと

八橋先生のスライドより

タイトルのように、「C型肝炎は完治する」というのであれば、これから先、肝臓専門の医師は何をするのだろうか？という素朴な疑問を抱いて参加しました。ところが、なんと非B非C型肝炎が増加の一途を辿っているのです、3年後にはC型肝炎を上回るだろうという予測のお話にはいささか驚きました。食事が欧米化して、いわゆるメタボリック症候群である脂肪肝が増え、そのうち肝臓が次第に硬くなり、肝硬変、さらに肝臓になるおそれがあるとのこと。最近「メタボ肝臓」という新語が生まれてきているそうです。これは若い世代に対する大きな警鐘ですよ。お互い、太らないように、酒を飲みすぎないように注意しましょう。

B型肝炎では内服の抗ウイルス剤を長期服用することで、肝臓発生を抑えましょう、とのこと。肝臓の硬さを測るにはチーズの硬さ(熟成度)を測る機械から発展した、高価な機械、ファイブロスキャンを使っていますとのこと。

C型肝炎には卓効を示す新しい抗ウイルス剤の登場により、ウイルスのタイプ次第では完治が期待できるようになったとのこと。1錠が6万円、8万円もする薬ですが、日本の皆保険制度のお蔭で、安心して治療を受けることが出来ている現状を話されました。インターフェロン注射はもうやらない時代になったとか。

また、[肝がん患者さんの5年生存率]について、全国調査のデータ(日本肝臓学会)では40%に対し、長崎医療センターでは55%と、生存率は15%も高い結果が出ていました。

[肝がん患者さん、初回ラジオ波治療例の5年生存率]では、全国調査(日本肝臓学会)では60%に対し、長崎医療センターでは70%と、これも当センターの治療成績が優れている結果となっています。

これは長崎医療センターの集学的(各専門分野の協働)、チーム医療(多職種間の連携)による成果だとの説明がありました。当センターの肝臓治療の歴史を知る者の一人として、誇らしく思いました。



講演しめくりのスライド

集まった市民の多くは、おそらく何らかの肝疾患をお持ちの方かと思いますが、講師は「一病息災」(持病が一つくらいある方が、無病の人よりも健康に注意し、かえって長生きであるということ)の熟語を取り上げて、より長く生きるために必要なヒントまでも頂きました。嬉しい話です。

これからは百歳生きる時代が到来するとのこと、よく笑い、よく話をし、よく運動し、お酒は少量を嗜むのであれば、長寿の秘訣となりますとのこと。専門家の助言ですから、十分納得しました。

それにしても、本講座への参加費は無料であり、しかも講演終了後にも個人的な相談に応じる機会も設けられていましたので、参加者にとっては、大きな恩恵を得たことになるでしょう。

このような医学医療の話を聴くことは、健康に不安を抱えている人にとっても、普段から健康に自信がある人にとっても、ひとしく有益な知識になる筈だと思います。

社会全体、健康志向の高まりのなか、このような催しは大変意義深いものと思いました。専門医療の知識が多くのスタッフの努力によって、市民に直接伝わるという、新しい医療のあり方に向かって、当センターが一体となって取り組まれていることに大きな感銘を受けました。